

# どのような教育観光が気仙沼に学生を集められるか

125班 佐藤俊太 小山健介 佐々木俊輔

## I 教育観光とその意義

東日本大震災から今年で六年を迎える。だが、震災の風化は日に日に進んでいる。震災を経験した気仙沼は、復興しつつある被災地だ。

そこで、私達は**教育旅行という形で**全国の学生に被災地の現状を見てもらうことで、気仙沼に住んでいるからこそその震災の経験と、その恐ろしさ、そして復興に向かっていく姿を伝えることができ、風化させなくすることができると思った。さらに、気仙沼も、全国から来るたくさんの若者と考えを交換し、今までとは違う、新鮮な視野を獲得できる。

### 教育旅行とは・・・

教育旅行とは、教育目的の旅行のこと。文部科学省の学習指導要領によれば、「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができる」。

**メリットα** 教育旅行で、気仙沼の復興しつつある現状や震災被害の大きさを次代を担う学生に伝えることができる

**メリットβ** 教育旅行は、一度に多数の来訪客が望め、経済効果が期待できる

## II 気仙沼の教育観光の現状

気仙沼では現在教育観光に力を入れており、事実月に5から10校が気仙沼に訪れている。今行っている教育観光に、私達学生の視点からでたアイデアを加えていくことで、学生目線に立ったよりよい教育観光にしていけると思われる。



1) 教育旅行ガイドブック(宮城県・現行)

## III 我々の提案

### 新たな教育観光プラン例

- 1日目 10:30 津波体験館見学(最初に津波の脅威を体験) **防災**
- 12:00 折石見学(100年前の津波で折れた石)
- 13:00 唐桑・カキ小屋で食事 **食育**
- 15:00 階上・岩井崎見学(今残っている最大の爪痕)
- 15:45 **気仙沼向洋高校旧校舎見学(同じ学生として共感) 防災**
- 17:00 階上にて民泊開始、夕食(民宿の人の話を聞く) **防災**
- 2日目 9:30 大島に移動、亀山リフト見学(燃えたりリフトを見学)
- 10:45 **鳴き砂体験(変わらない自然もあると知る) 理科・地学**
- 12:00 内湾移動、魚市場見学&昼食 **公民・食育**
- 13:00 周辺探索[紫市場等](気仙沼の人情も体感)
- 14:00 **一景島神社訪問 歴史・古典**
- 14:30 気仙沼高校訪問、交流(今まで見たものを同世代と共有)
- 16:00 終了、帰路へ

### 新たな教育観光スポット 「一景島神社」

この神社は、皆鶴姫伝説も残る歴史ある神社のひとつ。震災後、鳥居は建て替えられたが、昔ながらの姿でこの場所に立ち続けている。しかし地盤沈下が激しく、この神社とかさ上げした道路では50cmを超える段差がある。この震災前と後、そして長年の歴史が併存しており、さらにかさ上げという復興の足跡が感じられる神社は、来訪した学生に強い印象を与えてくれる。



## IV 観光学の見地から学んだこと

観光プランを作成するうえで、研究の中で触れた観光学という視点から、以下のことが大切であることを学んだ。Ⅲのプランでも、実際に活用している。

- 1: 市民目線、観光客目線に立った観光地を見つける
- 2: 物語性のある教育観光手法を使う

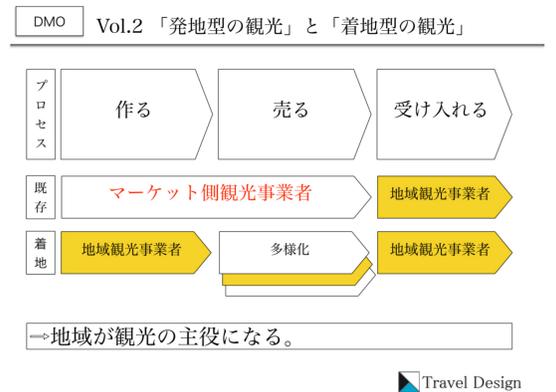
### 工夫1 地域密着観光が秘める大きな可能性

地域密着観光: その地域の会社や市民が考えたアイデアをもとに旅行を計画し、実行すること。

従来の観光=事業者の企画がもと

地域密着観光=地域の会社が企画

つまり、地域密着観光は地域の人だからこそ知っている場所を観光地に加えられる。また小回りがきくことから、多様な企画ができ、求められている多くのニーズに応えられる。

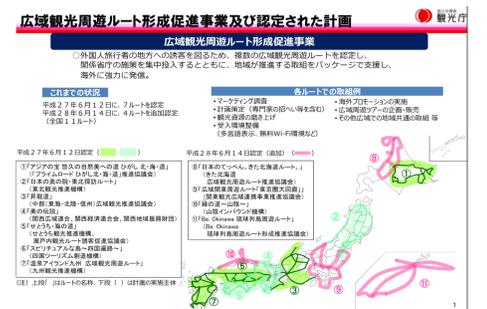


※着地型観光(右上表):

「旅行者を受け入れる側の地域(着地)側が、その地域でおすすめの観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する」旅行。(観光庁より)

### 工夫2 物語性ある観光

観光庁は一昨年、広域観光周遊ルートの制定へ乗り出した。これは、一貫したテーマ性・ストーリー性を持った観光地をつなげて連携させ、明確な旅行の目的を提示して、外国人観光客を誘致しようというもの。



3) 観光庁の示す広域観光周遊ルート11

外国人観光客が対象なわけではないが、この**ストーリー性**という考えは教育旅行にも転用できる。たとえば、教育旅行で訪れる場所に一連のつながりを持たせ、気仙沼の復興を追体験してもらうという方法だ。具体的には、震災で被害を受けた養殖いかだについて見た後に、復興して作られたカキを食べてもらうというパターンが考えられる。もしそうすることができれば、学生が関連づけて震災を考える手助けとなり、よりリアルに考えることができるようになる。

## V 今後の課題

- ・学生に対するアンケート調査が不足していること。
- ・アイデアをさらに多く増やしていくこと。
- ・より気仙沼の個性が出るような旅行にすること。

## VI 参考文献・サイト

- ・宮城県教育旅行ガイドブック <https://www.pref.miyagi.jp/kankou/kyoiku/html/index.html>
- ・Concierge, Akita (トラベルデザイン株式会社運営) <https://www.con-akita.com/>
- ・観光庁 - 国土交通省 <http://www.mlit.go.jp/kankocho/>
- ・文部科学省・高等学校学習指導要領 (文部省告示第58号 平成11年3月29日)
- ・気仙沼観光コンベンション協会の皆様